令和４年度　防衛大学校卒業式
来賓代表（三村　明夫様）祝辞

まず諸君のご卒業を心からお祝い申し上げます。諸君は集団での寮生活等の厳しい自己研鑽を終え、数々の思い出を残しながら、本日ここに、いわゆる英語でいうコメンスメント、新しい人生のスタートを迎えられました。

日本は現在「戦後最も厳しく複雑な安全保障環境」に直面しております。国の総力を挙げてこれに対処しなければならず、国民の一人ひとりが自らの役割を果たすことにより、国の総力増進に寄与しなければなりません。

私も、日鉄マンとして５１年、商工会議所会頭として９年、計６０年間日本の経済力強化のために努力して参りました。しかし、日本の経済力はグロスＧＤＰでも、国民一人当たりの豊かさを示す一人当たりＧＤＰでも、諸外国との間で相対的な地位を低下させています。この現実を何とかしなければなりません。国の総力増進のための最も重要な要素は、自由な経済活動を行える環境、すなわち「平和」の存在であります。平和は自らを守る意志と能力を持つ国にのみ与えられるものです。「汝平和を欲さば、戦いへの備えをせよ」というラテン語の格言にあるように、平和とは、戦いへの備え、すなわち、経済力と防衛力、外交力の強化を通じて得られるものであります。古代ローマに起源を持つと言われるこの警句は、今日日本が置かれている安全保障環境を見事に表現しており、意味深長なメッセージとして、防衛に関する足もとの議論に対し、多くの示唆を与えているように思います。

ロシアのウクライナ侵攻により、平和のために防衛力の強化が必要であると考える日本人は過半を超えました。このように、本日のコメンスメントを取り巻く日本の現状は、諸君に対し防衛に関する努力を一層促し、そのような諸君の努力を国民の多くが高く評価するように大きく変化しております。

私と防衛との関わりをここでご紹介いたします。私は３０（さんまる）防衛大綱策定に関する有識者会議の座長を拝命し、「多次元統合防衛力」構築の取りまとめに参画いたしました。また、父親同様の存在であった私の叔父は約６０年前に自衛隊に奉職し、地位は陸上幕僚監部の将補でありました。防衛大学でも週一回程度講義をしていたと聞いております。このような関係から、本日の卒業式で祝辞を述べさせていただくことに感謝すると同時に、叔父のことを思うと、いささかの感慨を覚えざるを得ません。

卒業式にあたり、私が諸君に望むことは、防大卒業生も「グローバル人材たれ」ということであります。グローバル人材とは、「日本とは異なった文化的背景を有する人たちと

の交流の中で、相手の言うことをよく理解し、その上で自らの考えをきちんと主張し、コミュニケーションがとれる人材」だと私は考えています。ただし、よく考えてみれば、このような能力は同国人同士の付き合いにおいても、組織の異なる相手との対話においても必要な能力であります。

グローバル人材とは、「グローバル」より「人材」に力点が置かれている言葉だと思います。例えば、経済界では、良い購買マンは良い販売マンだと言われています。異なる立場にあっても、相手の主張する内容を会社の状況等周辺事情を含めてよく理解し、その上で、自らが置かれた立場も踏まえて、ベストの提案が出来る購買マン、販売マンが最終的には成果を上げ、評価されることになるからであります。
このような能力は、座学では決して得られません。苦しい立場に身を置き、苦悩しながらようやく身に付くものであります。これからの新たな人生における、諸君の健闘をお祈りいたします。

世界情勢は現在も将来も極めて不安定です。こうした状況の中、防大で培ったことを糧に、防衛力の強化へ大いなる貢献をすることこそ、多くの国民が諸君に期待している点だと思います。諸君が充実した人生を送ることを心より祈念し、私からの祝辞といたします。

令和５年３月２６日
日本製鉄名誉会長　　三村　明夫